

青少年教育指導者スキルアップ研修会

令和3年12月11日(土)～12月12日(日) 1泊2日

○目的

体験活動指導者及びそれを目指している方を対象に、様々な体験活動の理論・手法を学ぶとともに、実践や指導者間の交流を通して、スキルアップと資質向上を図る。

○参加者

当施設法人ボランティア及び、学校教員、大学生、幼稚園教諭

計12名(内訳:男性6名、女性6名)

(高校生:1名、大学生:7名、社会人:4名)

○事業の内容

(1)「アイスブレイク」

事業推進係(兼)企画指導専門職付 小林 昌博

参加者の心身の緊張をほぐすことを目的にまずは“参加者”目線で実際に、指導者対参加者や、参加者同士のアイスブレイクを体験した。



(2)「アイスブレイクの意図開き」

事業推進係(兼)企画指導専門職付 小林 昌博

実際に体験した後、アイスブレイクの意義について説明を行い、アイスブレイクの理解を深めた。



(3)「自然と触れ合いながら ESD や SDGs

を学べるアクティビティを体験しよう！」

事業推進係(兼)企画指導専門職付 小林 昌博

ESD や SDGs について理解を深めた後、実際に外へ出て、自然物を使ったアクティビティを体験し、自然と触れ合うきっかけづくりについて学んだ。



(4)「熱中症対策講義」

講師:株式会社大塚製薬工場 小島 英一氏

野外活動における熱中症のリスクや予防について学び、指導者としてのリスク管理を学んだ。



(5)「グループエンカウンター(課題解決アクティビティ)」

事業推進係(兼)企画指導専門職付 小林 昌博

主体的・対話的なコミュニケーションを促すためのアクティビティを実際に体験した。



(6)「指導練習」

両日ともプログラム終了後、インプットしたことを実際に発揮する練習時間を設け、参加者相互にフィードバックをしながら実践的に指導練習を行った。



《参加者の感想》

- ・アイスブレイクからグループエンカウンターまで、子供たち同士の状況を見て事業を進行していく大切さがわかった。雰囲気づくりや子供たちに考えさせる時間を作るなど工夫できることを多く学ぶことができた。
- ・ESD や SDGs に関連付けて楽しめること、学習の結び付け方を学ぶことができた良い機会となりました。
- ・いろいろと体験して知識を得て、やはり実践することの大切さを改めて感じました。
- ・指導者としてどのような意図をもって講義や授業を進めていくのかを学ぶことができました。指導者が緊張してアイス状態にならないようにするのが、アウトプットの難しさだと思いました。
- ・自分の知らないことがたくさんあることを改めて感じた。参加者という“やる側”となったことで、参加者の気持ちを理解することにつながった。この後、指導者という立場になったときも今日参加したときのような“わくわく”を引き出せるような指導をしたいと思う。
- ・今回体験したプログラムの中で、見えそうなものをアレンジして自然体験に生かしていこうと思いました。

《成果と課題》

- 2日間の日程にゆとりを持たせ、プログラムの合間に自分の中でフィードバックをできる時間を設けたことにより、参加者自身に心のゆとりができ、アットホームな雰囲気で運営することができた。
- インプットする時間はもとより、「指導練習」として得た知識や技術をアウトプットする時間を設けたことにより、実践をフィードバックする時間ができ、参加者の自信につながった。
- 自由時間を設けた結果、参加者同士が交流し、指導練習やお互いの技術の交換など、指導者のネットワーク構築に寄与することができた。
- 今回、法人ボランティアを中心に、若手学校教員や若手保育者にも広報を行ったが、参加を得ることができなかった。より多くの方に体験いただくために、よりよい広報手段を模索していく必要がある。



※集合写真撮影時のみマスクを外しています。